

FMステレオ/FM AMチューナー

ST-S333ESA

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。
お使いになる前に、この取扱説明書をお読みください。
お読みになったあとは、後日お役に立つこともありますので、
必ず保存してください。

目次

使用上のご注意	②
接続	③
各部の名称	⑤
放送局を受信する(受信)	⑦
放送局を記憶する(メモリー)	⑧
局名を表示する	⑨
番組予約をする(プログラム)	⑩
主な仕様	⑪
保証書とアフターサービス	⑪
故障かな?	裏表紙

使用上のご注意

■電源について

家庭用電源コンセント(AC100V)につないでご使用ください。
本機は、国内専用ですので海外ではご使用になれません。

■電源コードについて

電源コードを無理に曲げたり、上に重い物をのせたりしないでください。コードに傷がついて火災や感電の原因になります。傷がついたコードは使わないでください。

電源コードを抜くときは、コードを引っ張らずに、必ずプラグを持って抜いてください。

■留守にするときは

ご旅行などで長い間ご使用にならないときは、必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

■感電を防ぐために

キャビネットは、絶対にはずさないでください。内部に手を触れると感電することがあり危険です。

■アースするには

絶対にガス管にはつながないでください。ガスに引火して爆発するおそれがあります。

■雷が鳴り出したら

屋外アンテナを使用中に雷が鳴り出したら、早めに電源コードをコンセントから抜いてください。このとき、アンテナ線には絶対に触れないでください。

■異物について

内部に液体をこぼしたり、燃えやすいものや、金属類を落とさないでください。そのまま使用すると火災や感電、故障、事故の原因となります。

■お手入れ

キャビネットおよびパネル面のよごれは、中性洗剤溶液を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げをいためますので、使わないでください。

設置

よりよい音質を得るためにも、チューナーなどのオーディオ機器は、以下のような場所をさげ、できるだけしっかりとした台などの上に設置してください。

- 振動の影響を受けやすい所
- 湿気の多い所、風通しの悪い所
- ほこりの多い所
- 直射日光のあたる所、温度の高い所
- 極端に寒い所

またチューナーは、雑音の原因となる冷蔵庫や蛍光灯から離して置き、ヘアードライヤーや電気カミソリなども使用しないようにしてください。

テレビとチューナーはできるだけ離して設置してください。

チューナーをテレビの近くに置いた場合には、AM放送の受信ができないなどの障害がおこることがあります。



このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、となり近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。

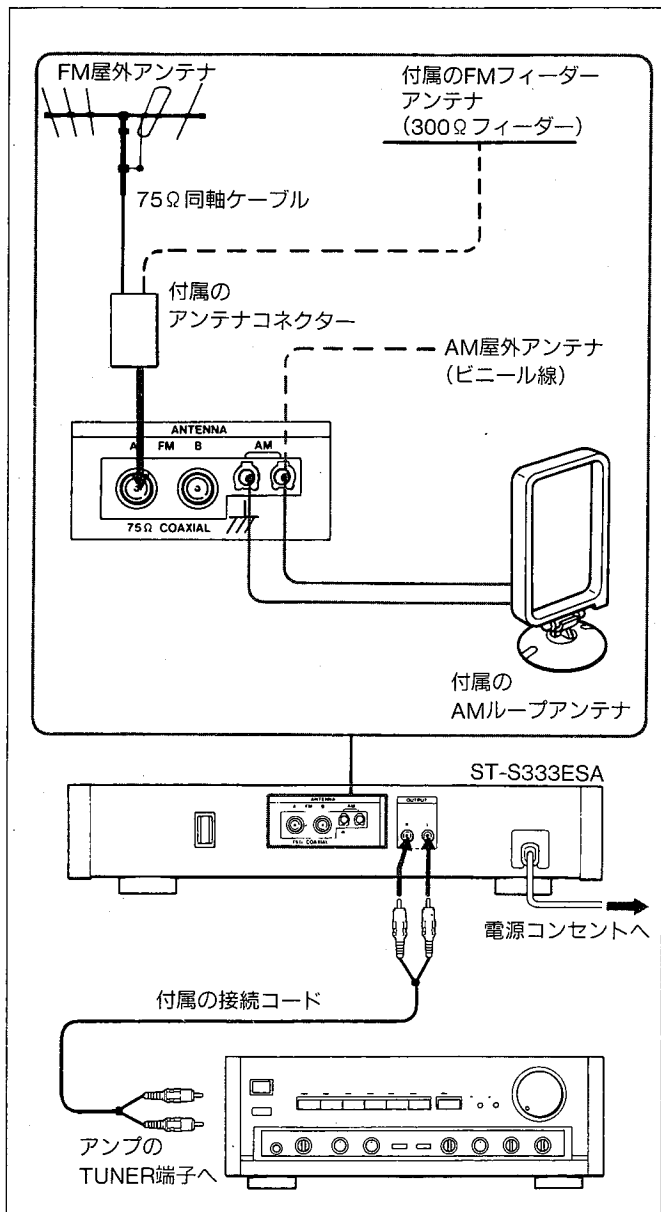
特に夜は小さな音でも周囲によく通るものです。

窓をしめたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

接続する前に

- 電源スイッチを必ず切ってから接続してください。
- 接続コードの赤いプラグはR(右)チャンネルへ、白いプラグはL(左)チャンネルへ接続します。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因になります。

接続図



配線したコード類は整理しておく

接続コードやスピーカーコードがAMループアンテナやアンテナリード線に触れると雑音の原因になります。

できるだけ離しましょう。

FMアンテナ

音質の良いFM放送を楽しむために、受信地の条件にあった専用外部アンテナを立てましょう。

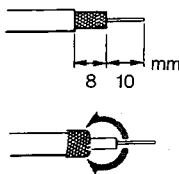
付属のFMフィーダーアンテナは、FM外部アンテナを立てるまでの間、一時的にお使いいただくためのものです。

75Ω同軸ケーブル

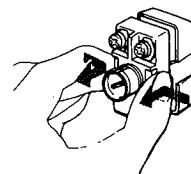
同軸ケーブルを使うと、雑音の影響を受けにくくなります。同軸ケーブルは太さにより数種類ありますが、3C-2Vが適当です。

付属のアンテナコネクターのつなぎかた

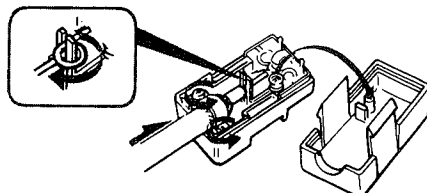
①ケーブルの先端を処理する。



②カバーをはずす。

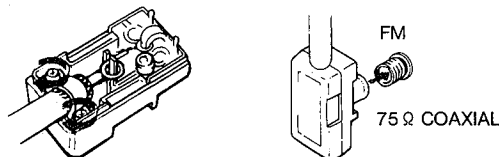


③ねじをゆるめ、心線を根元まで差し込んで巻きつける。



ショートリングをはずし、カバーの突起にはめる。

④ねじをしめ、カバーをはめてFMアンテナ端子へつなぐ。



市販のF型コネクタを使ってつなぐには

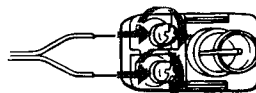


300Ωフィーダー

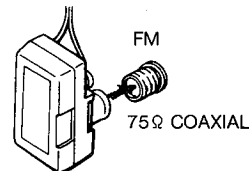
フィーダーは周囲の雑音の影響を受けやすいので、引き直しには十分な注意が必要です。また、あまり長くするとフィーダー自体がアンテナとなって、不要な電波を拾ってしまうので、できるだけ短くしましょう。

付属のアンテナコネクターのつなぎかた

①先端を巻きつけて、ねじをしっかりしめる。



② FMアンテナ端子へつなぐ。



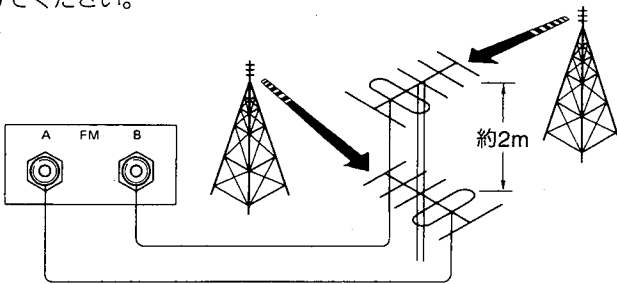
接続

FMアンテナ端子A, Bを使って

2つの異なる放送局について、それぞれ最適受信状態が得られるように方向や高さを変えて2本のアンテナをたてることができます。Aアンテナでは受信できない局でも、Bアンテナを使うと受信可能になったりします。隣接局どうしで方向が違う場合も、アンテナを切り換えることで選択度が良くなります。

接続したアンテナは、本体前面のANTボタンでAかBに切り換えて使うことができます。(7ページ：“FM放送受信時に表示される機能”参照)

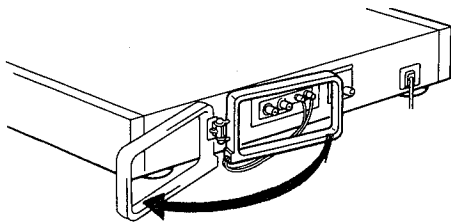
1本のマストを共用する場合は、図のように2m以上離して取り付けてください。



AMアンテナ

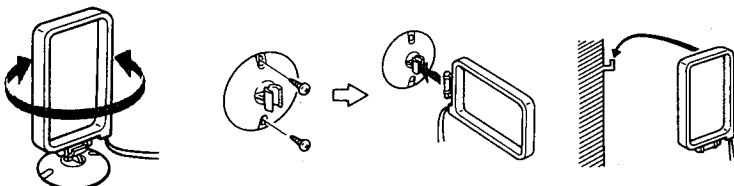
AM放送を受信するために、必ず付属のAMループアンテナをつないでください。このアンテナをつながないとAM放送が受信できません。

AMループアンテナは、一定の角度から来る電波を強く感じる性質(指向性)があります。最も受信状態が良い方向を探して動かしてください。



AM放送録音中に、ピーという雑音(ビート音)が出る場合があります。このようなときはAMループアンテナを雑音の消える位置に動かしてください。

このAMループアンテナは、スタンドに取り付けることもできます。スタンドを水平に置き、アンテナを立ててお使いいただけますので、受信状態が一番よいところを選んで自由に移動することができます。スタンドを壁に固定したり、壁にフックを作りアンテナをかけて使うこともできます。



AM屋外アンテナ

付属のAMループアンテナを動かしてみても受信状態がよくなる場合は、5m以上のビニール線をAMアンテナ端子につないでください。ビニール線は窓際や屋外になるべく高く、水平に張ると効果的です。このとき、AMループアンテナをはずす必要はありません。

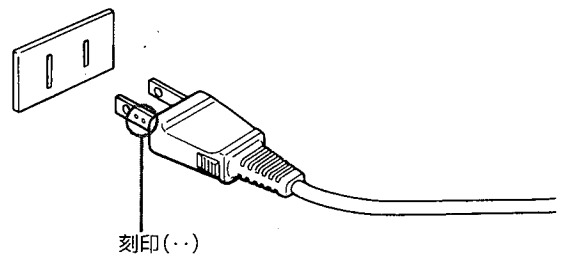
アース線

雑音が多い場合や、電波が弱い場合は、アース線をつなぐと、ハムや雑音が減ることがあります。ビニール線をアース端子(ア)につなぎ、もう一方の端子を50cm以上むいて使用します。外部アンテナを立てたときは、雷による危険を防ぐため、必ずアースをつないでください。

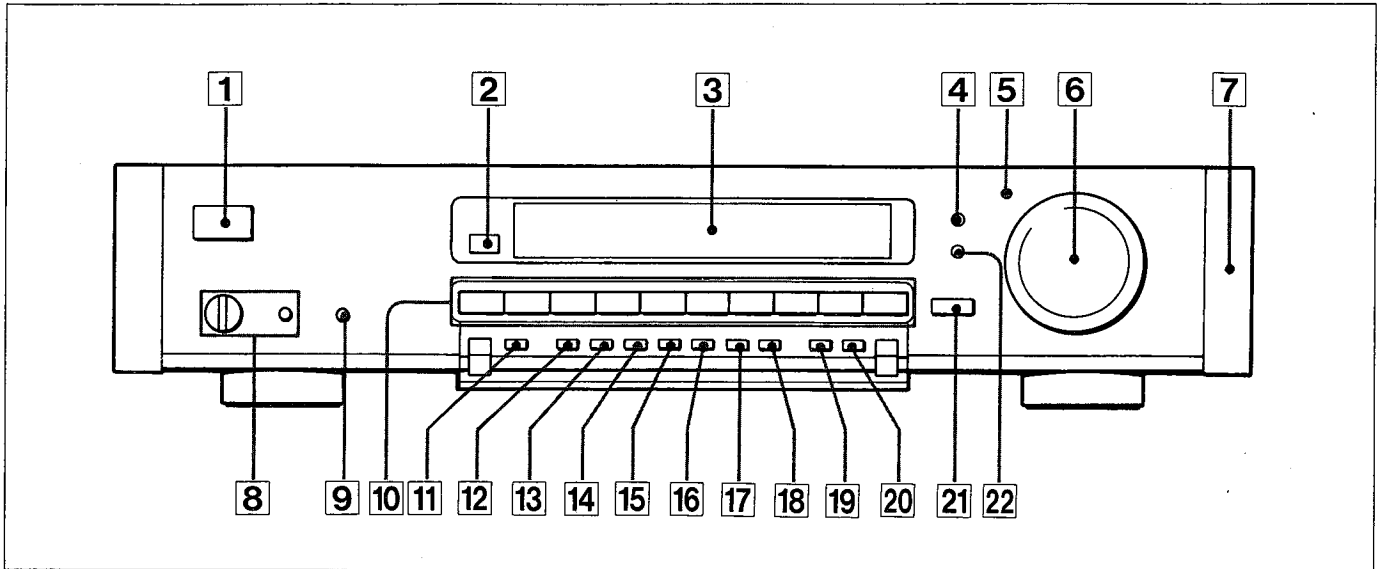
電源コード

電源プラグの一方には丸2つの刻印(●)が入っています。

これは、よりよい音質で音楽をお楽しみいただくために各機器の電源コードの極性を合わせるためです。刻印が入っている側が壁のコンセントの差し込み口の長い方(アース側)に来るように差し込みます。



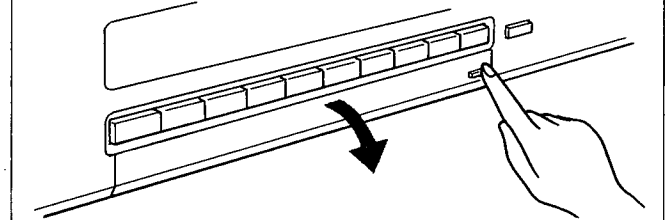
本体前面



- 1 **POWER**(電源スイッチ)
パワー
- 2 リモコン受光部
- 3 表示窓
チューニング プリセット
- 4 **TUNING/PRESET**ボタン ⑦
ビュア サーキット
- 5 **PURE CIRCUIT**インジケータ ⑦
チューニング キャラクター
- 6 **TUNING/CHARACTER**つまみ ⑦
- 7 化粧側板
プログラム チェック
- 8 **PROGRAM**(番組予約)スイッチと**CHECK**(確認)ボタン ⑩
ディスプレイ
- 9 **DISPLAY**ボタン
 局名表示されている時、周波数と文字の切り換えに使用します。
- 10 **プリセット**ボタン
キャリブレーション トーン
- 11 **CAL TONE**ボタン ⑩
 録音レベル設定に便利な基準信号が出せます。
アンテナ
- 12 **ANT**ボタン ⑦
 A, B2系統のアンテナが切り換えられます。
アールエフ モード
- 13 **RF MODE**ボタン ⑦
アイエフ バンド
- 14 **IF BAND**ボタン ⑦
ミューティング
- 15 **MUTING**ボタン ⑦
エフエム モード
- 16 **FM MODE**ボタン ⑦
チューン モード
- 17 **TUNE MODE**ボタン ⑦、⑧
 ④ **TUNING/PRESET**ボタンを押して表示窓に**TUNING**と表示されている時、自動受信(AUTO)と手動受信を切り換えます。
 ④ **TUNING/PRESET**ボタンを押して表示窓に**PRESET**と表示されている時、メモリスキャンの**AUTO**と**MANUAL**を切り換えます。

- 18 **CHARACTER**ボタン ⑨
キャラクター
- 19 **BAND**ボタン ⑦
バンド
- 20 **MEMORY**ボタン ⑧
メモリー
- 21 **SHIFT**ボタン ⑧
シフト
- メモリーページ(A, BまたはA, B, C)を選びます。
ディスプレイ モード
- 22 **DISPLAY MODE**ボタン ⑧
 表示の一部または、全部を消すことができます。

前面パネルの開けかた



化粧側板について

本機の左右には化粧側板が取り付けられていますが、都合によりこれを外して使うときは、側板を止めていたネジの代わりに、付属の短いケース止めネジ(M3×8、4本)を使用してキャビネットを止めてください。

付属の短いネジ以外を使うと、内部の基板に触れるなどして故障の原因になります。必ず付属の短いネジをお使いください。

なお安全のため、電源コードを電源コンセントから抜いて、作業してください。

各部の名称

リモートコマンダー

チューニングやプリセットチャンネルの選択などの操作が離れたところから行えます。

各ボタンの機能は、本体の同名のボタンやつまみと同じ働きです。

ディスプレイ モード
① DISPLAY MODEボタン ⑧

② プリセットボタン
バンド

③ BANDボタン
チューン モード

④ TUNE MODEボタン ⑦、⑧
チューニング

⑤ TUNING+/-ボタン
プリセット

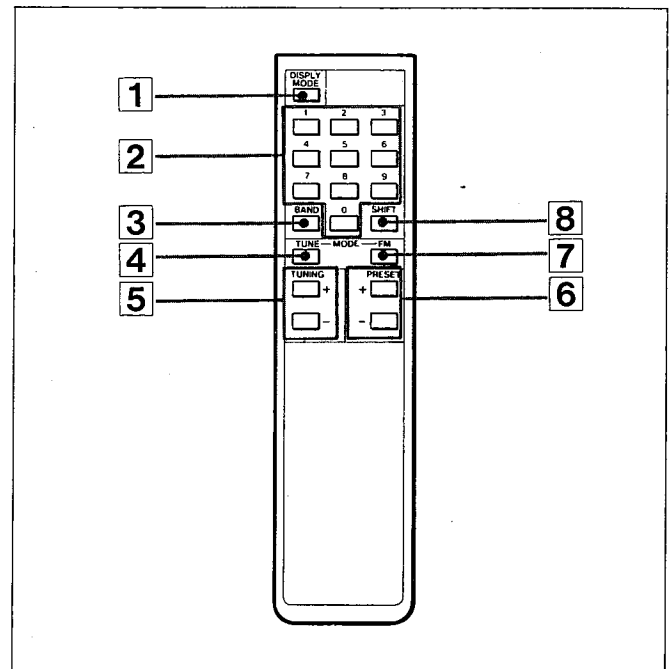
⑥ PRESET(プリセット)+/-ボタン

+または-ボタンを押すごとに、プリセットチャンネルをアッ

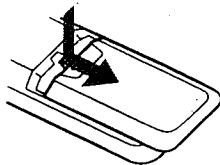
プまたはダウンします。

エフエム モード
⑦ FM MODEボタン ⑦

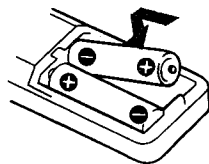
シフト
⑧ SHIFTボタン ⑧



電池の入れかた



単3形乾電池
2個(付属)



電池の交換時期は?

ふつうの使いかたで約6ヵ月もちます。

リモコンについてのご注意

リモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光があたらないようにご注意ください。リモコン操作ができないことがあります。

乾電池についてのご注意

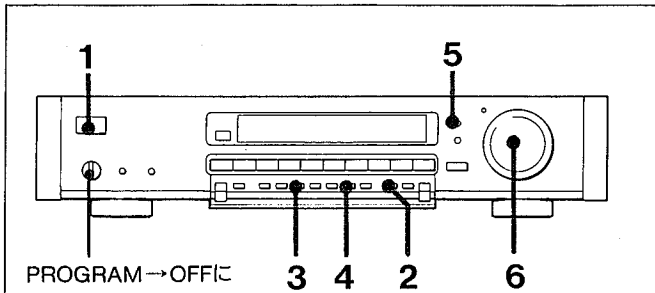
乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことは必ずお守りください。

- ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
- 新しい乾電池と使用した乾電池、または種類のちがう乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は充電できません。
- 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出しておいてください。
- 液もれが起こったときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。

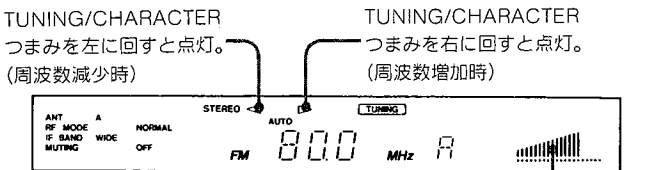
放送局を受信する(受信)

自動受信

放送を行っている局を探して自動的に止まります。



- 1 POWERスイッチを押して電源を入れる。
- 2 BANDボタンを押してバンドを選ぶ。
- 3 IF BANDボタンを押してWIDE表示を出す。
- 4 TUNE MODEボタンを押してAUTO表示を出す。
- 5 TUNING/PRESETボタンを押してTUNING表示を出す。
- 6 TUNING/CHARACTERつまみを回して選局する。
周波数を高くするには → 右に回す。
周波数を低くするには → 左に回す。
周波数が変わり始めたら、つまみから手を離す。放送を受信すると自動的に止まる。次の局を受信するときは、もう1度回す。



TUNING/CHARACTERつまみを左に回すと点灯。(周波数減少時)

TUNING/CHARACTERつまみを右に回すと点灯。(周波数増加時)

シグナルインジケータ
受信した電波の強さを表わします。

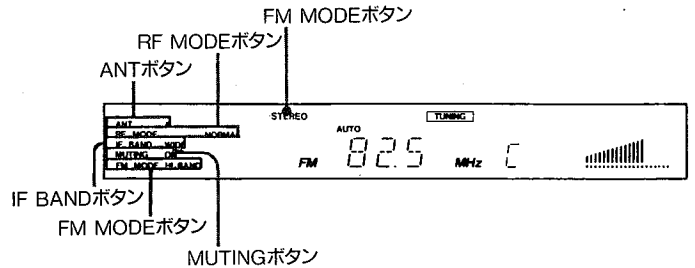
手動受信

電波が弱く、希望の局で止まらないときは、手動受信します。

- 1 TUNE MODEボタンを押してAUTO表示を消す。
- 2 TUNING表示が出ていることを確かめる。
PRESETになっていたらTUNING/PRESETボタンを押す。
- 3 TUNINGつまみを回して希望の局の周波数に合わせる。
周波数を高くするには → 右に回す。
周波数を低くするには → 左に回す。
つまみを回した分だけ周波数が変わる。

FM放送受信時に表示される機能

表示窓の左端に点灯する表示は、以下の機能を表しています。左に示しているFM放送受信の手順3の後に、それぞれ選択してください。



- **ANTボタン**
押すたびにA, Bと切り換わります。
これで、放送局に合わせたFMアンテナ端子を選びます。
(4ページ: “FMアンテナ端子A, Bを使って”参照)
- **RF MODEボタン**
押すたびにNORMAL, DIRECTと切り換わります。
NORMAL: 通常はこの位置にしてください。
DIRECT: RFアンプを通らないために音質が良くなります。
受信電波の強い放送局のみでご使用ください。
- **IF BANDボタン**
押すたびにWIDE, NARROWと切り換わります。
WIDE: ひずみ率が低く良い音質で受信できます。
NARROW: 強い電波の隣接局があるときにこの位置にします。
選択度がよくなり、妨害の少ない受信ができます。
- **MUTINGボタン**
ON: 電波の強い放送局を受信するとき、この位置にします。
FM放送の局間ノイズ(ザーという音)を取り除きます。
OFF: 電波の弱い放送を受信するとき、この位置にします。
局間に雑音ができますので、アンプの音量を絞って選局してください。
- **FM MODEボタン**
押すたびにオートステレオ状態、HI-BLEND、MONOと切り換わります。
オートステレオ状態: 電波の強いステレオ放送を聴くときは、HI-BLEND、MONO表示を消し、オートステレオ状態にします。
HI-BLEND: 高音部に雑音が入り聴きにくいとき、この位置にします。雑音の少ないステレオ放送が聴けます。
MONO: 電波が弱く雑音が耳障りなとき、この位置にします。
モノラルになりますが聴きやすくなります。

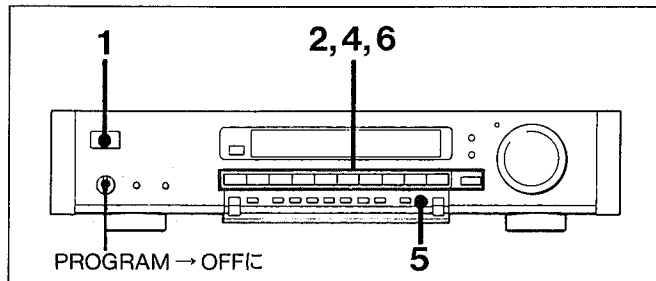
PURE CIRCUITインジケータについて

操作後、約2秒たつと、PURE CIRCUITインジケータが点灯します。これは、デジタル回路が停止し、アナログ回路だけに切り換わったことを示しています。干渉のない純粋な音質がお楽しみいただけます。

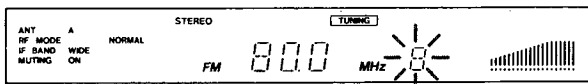
放送局を記憶する(メモリー)

FM局とAM局をランダムに記憶することができます。
記憶の方法には次の2通りあり、好きな方を選んでいただけます。

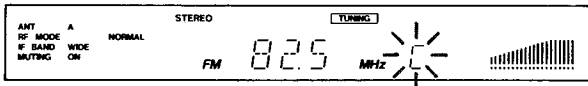
- 局名表示モード(出荷時はこのモードで設定しています)
最大4文字の局名と、合計20局までのメモリーが可能
- 周波数モード
合計30局までのメモリーが可能



- 1 POWERスイッチを押して電源を入れる。
- 2 SHIFTボタンを押してモードを確認する。
押すたびにA, Bと表示が変わるなら局名表示モード。



押すたびにA, B, Cと表示が変わるなら周波数モード。



(モードを変えたい場合)

- ・局名表示モードに変える → いったん電源を切る。プリセットボタン2を押しながらPOWERスイッチを押し、電源を入れる。
- ・周波数モードに変える → いったん電源を切る。プリセットボタン3を押しながらPOWERスイッチを押し、電源を入れる。

ただし、メモリーした後にモードを変えると、メモリーした局はクリアされるので、最初にこの設定をしておく。

- 3 希望の放送局を受信する。(操作方法は7ページをご覧ください)
- 4 局名表示モードを選んだら、SHIFTボタンを押し、A, Bのうちから希望のページを選ぶ。
周波数モードを選んだら、SHIFTボタンを押し、A, B, Cのうちから希望のページを選ぶ。
- 5 MEMORYボタンを押してMEMORY表示を出す。
プリセット番号が4秒間点滅し、メモリーできる状態であることを示す。
- 6 MEMORY表示が点灯中に、プリセットボタンで希望の番号を選ぶ。

プリセットボタンは0から9までしかありませんが、SHIFTボタンを押すことにより、A, B(周波数モードの場合はA, B, C)の各々に10局ずつ記憶することができます。

メモリーした局を自動で確かめるには

- 1 TUNE MODEボタンを押して、AUTO表示を出す。
- 2 TUNING/PRESETボタンを押して、PRESET表示を出す。
- 3 TUNING/CHARACTERつまみを右か左に回す。
プリセット番号の大きい方を確かめるためには → 右に回す
プリセット番号の小さい方を確かめるためには → 左に回す
メモリーした局が順番に4秒間ずつ受信される。

メモリーした局を手動で確かめるには

- 1 TUNE MODEボタンを押してAUTO表示を消す。
- 2 TUNING/PRESETボタンを押して、PRESET表示を出す。
- 3 TUNING/CHARACTERつまみを回す。回すごとにメモリーしてある局が順に呼び出されて、そのプリセット番号のインジケーターが点灯する。

記憶した局を受信するには

- 1 POWERスイッチを押して電源を入れる。
- 2 SHIFTボタンを押して希望の放送局が記憶されているページを選ぶ。
- 3 希望のプリセットボタンを押す。

メモリーできる受信条件

次の受信条件も局ごとに同時に記憶することができます。

FM時●ANTENNA(A/B)

- RF MODE(NORMAL/DIRECT)
- MUTING(ON/OFF)
- FM MODE(オートステレオ状態/HI BLEND/MONO)

FM/AM時●IF BAND(WIDE/NARROW)

新しい局を記憶すると

同じメモリーページの同じプリセットボタンに記憶されていた前の放送局は消えます。

プリセットする前にMEMORY表示が消えてしまったら

もう一度MEMORYボタンを押してください。

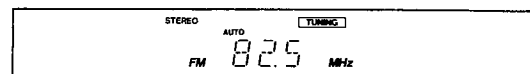
プリセット局の記憶の保存

電源を切った状態でも、約1ヶ月間保存されます。

より高音質の音をお楽しみいただくために

表示窓の表示を消すと、干渉のない音になります。

DISPLAY MODEボタンを1回押すと…



中央の周波数部分のみ表示されます。

DISPLAY MODEボタンをもう1回押すと、すべての表示が消えます。もう1回押すと、表示はもとに戻ります。

表示を消しているときに設定状態を知るためには

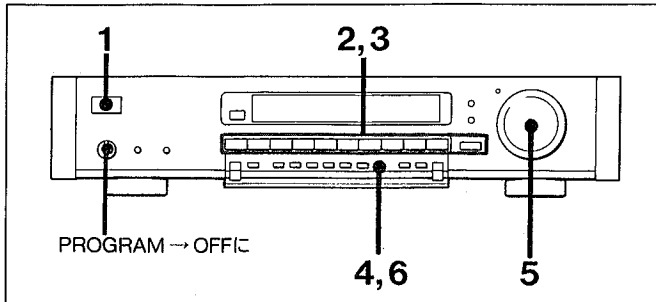
知りたい局のプリセットボタンを押します。

すべての表示が2秒間点灯し、消えます。

局名を表示する

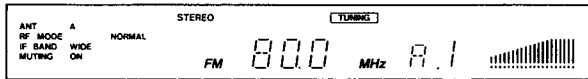
局名表示モードに設定すると、最大4文字までの局名を表示することができます。

局名表示で表示できる文字は以下の57文字です。(spaceも含む)
TUNING/CHARACTERつまみを右へ回すと、(space)から順番に表示されます。左へ回すと、逆の順番で表示されます。

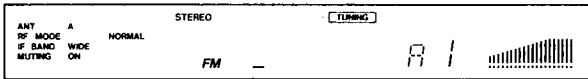


(space), A, B, C, D, E, F, G, H, I, J, K, L, M, N, O, P, Q, R, S, T, U, V, W, X, Y, Z, *, +, -, /, \, 9, 8, 7, 6, 5, 4, 3, 2, 1, 0, 「, |, 」, L, ' , , 〇, □, 卍, 卐, ∨, <, >, ^, 〃

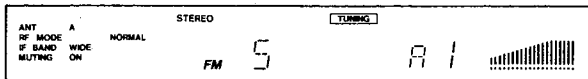
- 1 POWERスイッチを押して電源を入れる。
- 2 SHIFTボタンを押し、局名表示モードになっていることを確かめる。(モードの確かめかたは、8ページをご覧ください。)
- 3 局名表示したい局をプリセットボタンで選ぶ。



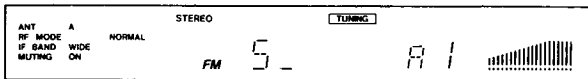
- 4 CHARACTERボタンを押す。
周波数の表示が消え、カーソルが点滅する。



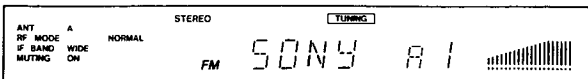
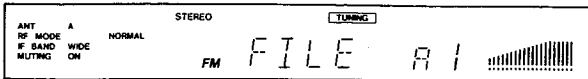
- 5 TUNING/CHARACTERつまみを右か左に回し、文字を選ぶ。



- 6 希望の文字が表示されたら、CHARACTERボタンを押す。



- 7 5~6の操作を繰り返して、局名を作る。
4文字まで設定されると、「FILE」と表示され、そのあと局名がでる。

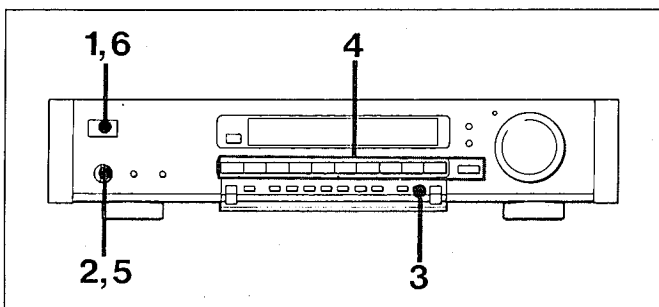


番組予約をする(プログラム)

プログラムタイマーを使って、電源を自動的にON/OFFにする場合、あらかじめプログラムしておく、電源が入るたびに選んでいた番組(放送局)がお好きな局順で4回まで自動的に受信できます。留守録音をしたりするのに便利です。

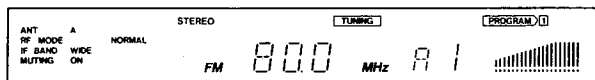
はじめに、何時にどの放送局を聞くかを決め、順にメモしておきましょう。放送が始まる時刻の順番にプログラム1,2,3,4とします。

受信したい放送局	放送局をメモリーしてあるプリセットボタン	プログラムの順序
午前7:00~8:00 FM東京	A [1]	➔ [1]
9:00~9:30 ニッポン放送	A [6]	➔ [2]
午後1:00~3:00 J-WAVE	B [2]	➔ [3]
5:00~6:00 NHK FM	A [2]	➔ [4]

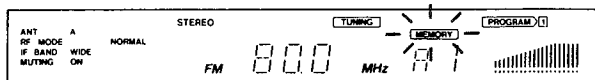


1 POWERスイッチを押して電源を入れる。

2 PROGRAMスイッチをSETする。

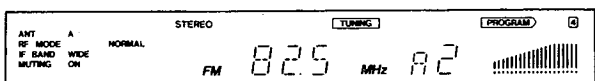


3 MEMORYボタンを押す。MEMORYが表示される。



4 MEMORY表示が点灯中(約4秒間)に、受信したい局のメモリーページ、プリセットボタンを押す。さらに4秒間MEMORY表示が点灯する。(例では、A-1、A-6、B-2、A-2の順。)

プリセットボタンを押すたびに、PROGRAM表示の数字が1、2、3、4と進み、この順に放送局がプログラムされる。



5 PROGRAMスイッチをSETまたはLOCKにする。

6 プログラムタイマーによって自動的に電源が入ると、プログラム1に設定した放送局が受信される。その後も電源が入るたびにプログラム2,3,4,1,2,……と受信される。プログラム受信をやめたいときにはPROGRAMスイッチをOFFにする。

プリセットボタンを押す前にMEMORY表示が消えてしまったらもう一度MEMORYボタンを押して、MEMORY表示を出します。プログラムの途中で表示が消えてしまった場合、途中から追加はできませんので最初からやり直してください。

タイマーの合わせかた

8時までをS局、8時からをT局というように、電源をONにしたままで、自動的に放送局を切り換えることはできません。7時59分にOFF、8時に再びONになるようにタイマーを合わせてください。

プログラムした順序を確認するには

1 PROGRAMスイッチをSETにする。

2 CHECKボタンを押す。

プログラムされた放送局を順に約2秒間ずつ受信する。それとともなって受信しているPROGRAM表示の番号が、順番に点灯する。

プログラムされている放送局をすべて呼び出し終わると、最後にプログラムされている局を受信する。

プログラムした局を更新するには

プログラムを削除することはできません。ただし、すでにプログラムされた局を更新して、他の局をプログラムすることはできます。PROGRAMスイッチをSETにします。MEMORYボタンを押し、プリセットボタンのどれか1つを押します。これで、前にプログラムされていた局はすべて消えます。ただし、消すために押したプリセットボタンでメモリーした局が、プログラムの1番目に入ります。部分的なプログラムの入れ換えの場合にも、全部を最初からプログラムし直してください。

タイマー動作中の誤動作を防止するには

PROGRAMスイッチをLOCKにします。LOCKの位置にしておくと、電源スイッチ以外の一切のボタンが動かなくなります。タイマー動作中に誤って各種のボタンが押されても、受信状態には影響しません。

プログラム受信中に他の局を聞くには

PROGRAMスイッチがSETやLOCKになっていると、TUNING/CHARACTERつまみやプリセットボタンは働きません。PROGRAMスイッチをOFFにしてからTUNING/CHARACTERつまみやプリセットボタンを押してください。このとき、プログラムされている内容はすべて保持されています。

録音レベル調節に便利なCAL TONE

CAL TONEは、400Hz、50変調相当の信号です。FM放送のエアチェック時には、CAL TONEを利用してテープデッキの録音レベルを調節すると便利です。一般的には、CAL TONEを録音して、最大録音レベルから6dB引いた値までメーターが振れるように調節します。本機ではCAL TONEボタンを押すと、CAL TONEが出されるようになっています。(CAL表示点灯。)

CAL TONEを解除するにはもう一度押します。

主な仕様

回路方式 PLLデジタル周波数シンセサイザー
クォーツロック方式
AM/FMステレオチューナー

FMチューナー一部

受信周波数 76.0~90.0MHz
中間周波数 10.7MHz
S/N 100dB(モノ)、92dB(ステレオ)
感度

		新IHF	IHF
S/N	モノ	16.8dBf	1.8 μ V
50dB感度	ステレオ	37.9dBf	22.5 μ V
実用感度		10.3dBf	0.9 μ V

高調波ひずみ率 WIDE時：
0.004%(モノ)、0.0075%(ステレオ)
NARROW時：
0.04%(モノ)、0.07%(ステレオ)

ステレオ分離度 70dB(WIDE)
(1kHz) 50dB(NARROW)

実効選択度 65dB(300kHz、NARROW)
70dB(400kHz、WIDE)

イメージ妨害比 100dB

出力 750mV、600 Ω (75kHz dev.)

AMチューナー一部

受信周波数 531kHz~1,602kHz
中間周波数 450kHz
感度 200 μ V/m(AMループアンテナ使用時)
30 μ V/m(外部アンテナ)

S/N 54dB
高調波ひずみ率 0.3%(400Hz)
選択度 65dB(9kHz、NARROW)
50dB(9kHz、WIDE)

電源部・その他

電源 AC100V、50/60Hz
消費電力 20W
最大外形寸法 470×96×372mm(幅/高さ/奥行き)
重量 7kg
付属品 AMループアンテナ(1)、
FMフィーダーアンテナ(1)、
アンテナコネクター(75/300 Ω F型)(1)、
接続コード(1)、ケース止めネジ M3×8(4)、
リモートコマンダー RM-J300(1)、
ソニー乾電池 SUM-3(NS)(2)、
取扱説明書(1)、保証書(1)、
サービス窓口・ご相談窓口のご案内(1)

本機は仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げ店でお受け取りください。

所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

保証期間は、お買い上げより1年間です。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。なお、補修用性能部品の保有期間は、通商産業省の指導によるものです。

アフターサービス

●調子が悪いときはまず確認を

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

●それでも具合の悪いときはサービス窓口へ

お買い上げ店、または添付の「サービス窓口、ご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

●保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型式：ST-S333ESA
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日

故障かな？

チューナーの調子がどうもおかしい——そんなとき、サービス窓口にご相談になる前にもう一度チェックしてみましょう。案外、簡単なミスや勘違いをしていたり、ちょっとしたお手入れで直ることが多いものです。

症 状	原 因	処 置
音が出ない。	アンプとの接続が悪い。	アンプとの接続を確かめる。
	アンプの入力切り換えが間違っている。	アンプの入力切り換えをTUNERにする。
雑音が多い。	アンテナとの接続がフィーダー線である。	同軸ケーブルに変えてみる。
	AMループアンテナにFMのアンテナ引き込み線や接続コード、電源コード、スピーカーコードなどが接触している。	コード類をAMアンテナから離す。
	蛍光灯や冷蔵庫、テレビ、トランシーバー、アマチュア無線機をそばで使っている。	雑音源と、チューナーやアンテナのリード線を離す。
プリセットボタンを押しても受信ができない。	周波数が違う。	正確な周波数をメモリーする。
表示窓に正しい表示がでない。	内蔵のマイクロコンピューターがうまく機能していない。	電源を切る。 プリセットボタンの9と0を押しながら、POWERスイッチを押して電源を入れる。 (ただし、これで本体内のマイコンがリセットされ、初期状態に戻るため、メモリーやプログラムした放送局も消去される。)
ボタンを押しても表示が変わらない。	PROGRAMスイッチがSETかLOCKになっている。	PROGRAMスイッチをOFFにする。

異常や不具合が起きたら

万一、異常や不具合が起きたとき、異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードを必ずコンセントから抜いて、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

ソニー株式会社 〒141 東京都品川区北品川6-7-35

お問い合わせはお客様ご相談センターへ

●東京(03)3448-3311 ●大阪(06)251-5111 ●名古屋(052)232-2611